

# ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	五十嵐 麻利江
主な担当科目	実技個人レッスン[ヴォーカル③,声楽①,声楽②,声楽④,音楽芸術表現実技(声楽)]
シラバス	次ページをご参照ください
2022年の教育目標・授業に臨む姿勢	1年を通じて学部・短大・院生のそれぞれの学びにおいて基礎能力を身につけること。これが毎年の教育目標として掲げていることである。それに加え授業に臨む姿勢という観点から学生と教員間に温かい信頼関係をどれだけ築けるか、お互いの心を読み取り、教員は学生の長所を早い時期に見つけ出すこと、そしておとなしい彼らにエネルギーを吹き込むこと、彼らの奏でる音がより一層輝きのあるパワーに満ちたものになるように精進してきたつもりである。
2022年の教育に関する自己評価	この1年間も学生たちと共に切磋琢磨し闘ってきた。この結果が表れ始めるのは5年後10年後より未来かもしれない。彼らにとって1年間が有意義であったことを切に願っている。細かい反省点はないわけではないが、コロナ禍でも昨年より接触は増えたしコロナに慣れたこともありそれなりに自由な楽しい関係を築けたのではと思っている。
2022年のFD活動に関する自己評価	昨今の多様な学生たちにどう接していくかを考え出して4～5年が経とうとしている。その間にコロナもありまともな学生生活をおくることが出来ずにいた学生たちが卒業を迎えている。そんな彼らは本当に運命的に過酷であったと思っている。他人と接することが困難な適応障害の学生が退学となりとても残念であった。一方アスペルガー障害と診断されている学生は無事に卒業を迎える。学生が苦しくなったときはその都度丁寧に話し合ってきたつもりだが、反省点を踏まえ又次年度に挑むつもりである。
授業改善のために取り入れた研修内容	コロナ禍でも何も動けなかった3年間で振り返り、今年は感謝の気持ちを皆で味わうために門下生とOBでクリスマスキャロルコンサートを12月24日に行った。何度も練習し気持ちを一つにして大勢のお客様の前で発表できたことは寒さも吹っ飛ばすぐらいのパワーがあり、涙が出るほど感動出来た。何かひとつでも多く共同作業が出来たらと思っていたので満足している。皆で食べた豚汁が心も体も温めてくれた。

科目名－クラス名

## ヴォーカル③

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	3～	通年	4	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

ミュージカルコース3年次必修科目であり、個人レッスンを通して、歌唱の技術と表現を学ぶ。1・2年次に身に付けた技術を基に、多岐に渡るミュージカル作品の中から様々な課題にチャレンジし、レパートリーを広げる。1年次から4年次まで全8回ある実技試験の内、少なくともそれぞれに1回ずつ、日本語及び英語で歌う事。

## 学修成果

ミュージカルに適した発声・歌唱・表現法を身に付け、多岐に渡るミュージカル作品の中から様々な楽曲に挑戦することが出来、広いレパートリーを持つことが出来る。

## 授業展開と内容

第1回	・前期目標の確認 ・多岐に渡るミュージカル作品から数曲を抜粋し、歌唱教材Ⅰの選定を行う
第2回	・2年次に身に付けた発声の復習、及びミュージカルに適した歌唱法についてのガイダンス ・歌唱教材Ⅰの読譜
第3回	・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声① ・歌唱教材Ⅰの構造、及びそれがおかれた作品全体を理解する
第4回	・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声② ・歌唱教材Ⅰの歌詞の理解及び表現における理解を深める
第5回	・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声③ ・歌唱教材Ⅰの演奏の完成度を高める
第6回	・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声④ ・進み具合に応じてタイプの違う歌唱教材Ⅱを選定する
第7回	・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑤ ・歌唱教材Ⅱの読譜を行い、構造を理解する
第8回	・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑥ ・歌唱教材Ⅱのおかれた作品全体を理解し、歌詞の理解を深める
第9回	・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑦ ・歌唱教材Ⅱの表現における理解を深める
第10回	・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑧ ・歌唱教材Ⅱの演奏の完成度を高める
第11回	・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑨ ・試験曲Ⅰを選定する
第12回	・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑩ ・試験曲Ⅰの読譜を行い、構造を理解する
第13回	・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑪ ・試験曲Ⅰのおかれた作品全体を理解し、歌詞の理解を深める
第14回	・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑫ ・試験曲Ⅰの表現における理解を深める
第15回	・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑬ ・試験曲Ⅰの演奏の完成度を高める
第16回	・後期目標の確認 ・前期とは違うタイプの曲を歌唱教材Ⅲとして選定する
第17回	・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑭ ・歌唱教材Ⅲの読譜を行い、構造を理解する
第18回	・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑮ ・歌唱教材Ⅲのおかれた作品全体を理解し、歌詞の理解を深める
第19回	・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑯ ・歌唱教材Ⅲの表現における理解を深める

第20回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑰ ・ 歌唱教材Ⅲの演奏の完成度を高める
第21回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑱ ・ 進み具合に応じてタイプの違う歌唱教材Ⅳを選定する
第22回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑲ ・ 歌唱教材Ⅳの読譜を行い、構造を理解する
第23回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑳ ・ 歌唱教材Ⅳのおかれた作品全体を理解し、歌詞の理解を深める
第24回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声？ ・ 歌唱教材Ⅳの表現における理解を深める
第25回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声？ ・ 歌唱教材Ⅳの演奏の完成度を高める
第26回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声？ ・ 試験曲Ⅱを選定する
第27回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声？ ・ 試験曲Ⅱの読譜を行い、構造を理解する
第28回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声？ ・ 試験曲Ⅱのおかれた作品全体を理解し、歌詞の理解を深める
第29回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声？ ・ 試験曲Ⅱの表現における理解を深める
第30回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声？ ・ 試験曲Ⅱの演奏の完成度を高める

#### 履修上の注意

個人レッスン故、各々の能力に応じて最適な教授法が取られるため、進み具合は上記とは異なる場合がある。  
試験曲は前期・後期とも担当の教員と相談して3分以内にまとめる事。伴奏合わせは2回行うことが義務づけられている。  
レッスンには必要に応じて伴奏譜も用意すること。  
やむをえず遅刻・欠席する場合は必ず担当教員に連絡を入れること。

#### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

毎日の発声練習はもちろんの事、譜読み、楽曲に関する様々な角度からの考察を含め、予習（30分程度）と復習（30分程度）は常に積極的に行うこと。  
自己管理を怠らず欠席をしないよう心がけること。

#### 教科書・参考書

担当教員と相談の事。

科目名－クラス名

## ヴォーカル③

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験 授業内小テスト	合計
				定期試験	筆記・実技	課題提出	作品提出		
実技・実習	3～	通年	4	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

ミュージカルコース3年次必修科目であり、個人レッスンを通して、歌唱の技術と表現を学ぶ。1・2年次に身に付けた技術を基に、多岐に渡るミュージカル作品の中から様々な課題にチャレンジし、レパートリーを広げる。1年次から4年次まで全8回ある実技試験の内、少なくともそれぞれに1回ずつ、日本語及び英語で歌う事。

## 学修成果

ミュージカルに適した発声・歌唱・表現法を身に付け、多岐に渡るミュージカル作品の中から様々な楽曲に挑戦することが出来、広いレパートリーを持つことが出来る。

## 授業展開と内容

第1回	・前期目標の確認 ・多岐に渡るミュージカル作品から数曲を抜粋し、歌唱教材Ⅰの選定を行う
第2回	・2年次に身に付けた発声の復習、及びミュージカルに適した歌唱法についてのガイダンス ・歌唱教材Ⅰの読譜
第3回	・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声① ・歌唱教材Ⅰの構造、及びそれがおかれた作品全体を理解する
第4回	・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声② ・歌唱教材Ⅰの歌詞の理解及び表現における理解を深める
第5回	・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声③ ・歌唱教材Ⅰの演奏の完成度を高める
第6回	・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声④ ・進み具合に応じてタイプの違う歌唱教材Ⅱを選定する
第7回	・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑤ ・歌唱教材Ⅱの読譜を行い、構造を理解する
第8回	・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑥ ・歌唱教材Ⅱのおかれた作品全体を理解し、歌詞の理解を深める
第9回	・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑦ ・歌唱教材Ⅱの表現における理解を深める
第10回	・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑧ ・歌唱教材Ⅱの演奏の完成度を高める
第11回	・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑨ ・試験曲Ⅰを選定する
第12回	・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑩ ・試験曲Ⅰの読譜を行い、構造を理解する
第13回	・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑪ ・試験曲Ⅰのおかれた作品全体を理解し、歌詞の理解を深める
第14回	・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑫ ・試験曲Ⅰの表現における理解を深める
第15回	・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑬ ・試験曲Ⅰの演奏の完成度を高める
第16回	・後期目標の確認 ・前期とは違うタイプの曲を歌唱教材Ⅲとして選定する
第17回	・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑭ ・歌唱教材Ⅲの読譜を行い、構造を理解する
第18回	・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑮ ・歌唱教材Ⅲのおかれた作品全体を理解し、歌詞の理解を深める
第19回	・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑯ ・歌唱教材Ⅲの表現における理解を深める

第20回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑰ ・ 歌唱教材Ⅲの演奏の完成度を高める
第21回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑱ ・ 進み具合に応じてタイプの違う歌唱教材Ⅳを選定する
第22回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑲ ・ 歌唱教材Ⅳの読譜を行い、構造を理解する
第23回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑳ ・ 歌唱教材Ⅳのおかれた作品全体を理解し、歌詞の理解を深める
第24回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声㉑ ・ 歌唱教材Ⅳの表現における理解を深める
第25回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声㉒ ・ 歌唱教材Ⅳの演奏の完成度を高める
第26回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声㉓ ・ 試験曲Ⅱを選定する
第27回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声㉔ ・ 試験曲Ⅱの読譜を行い、構造を理解する
第28回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声㉕ ・ 試験曲Ⅱのおかれた作品全体を理解し、歌詞の理解を深める
第29回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声㉖ ・ 試験曲Ⅱの表現における理解を深める
第30回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声㉗ ・ 試験曲Ⅱの演奏の完成度を高める

#### 履修上の注意

個人レッスン故、各々の能力に応じて最適な教授法が取られるため、進み具合は上記とは異なる場合がある。  
試験曲は前期・後期とも担当の教員と相談して3分以内にまとめる事。伴奏合わせは2回行うことが義務づけられている。  
レッスンには必要に応じて伴奏譜も用意すること。  
やむをえず遅刻・欠席する場合は必ず担当教員に連絡を入れること。

#### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

毎日の発声練習はもちろんの事、譜読み、楽曲に関する様々な角度からの考察を含め、予習（30分程度）と復習（30分程度）は常に積極的に行うこと。  
自己管理を怠らず欠席をしないよう心がけること。

#### 教科書・参考書

担当教員と相談の事。

科目名－クラス名

## 声乐①

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価方法	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	1～	通年	4	評価方法	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

この科目は、大学での学びの根幹となる主科実技の個人レッスン(週1回45分)である。ベルカント唱法に基いた呼吸～発声～共鳴に至るまでの歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。担当教員と曲目を選定し、イタリア語の正確な発音を学ぶとともに、発声の基本的な訓練を積み重ねながら少しずつ歌う身体を作っていく。

実技試験の課題曲は前期・後期とも「イタリア古典歌曲1曲(4分以内)」 実技試験の点数をもって評価とする。

## 学修成果

- 歌唱の基本（発声、呼吸、支え等）を身につけ、ベルカント唱法の基礎力を高めることができる。
- イタリア語の正確な発音を覚えることができる。
- イタリア古典歌曲（1792年のRossini生誕以前の作曲者による作品）のレパートリーを作り、演奏法や様式感を理解することができる。

## 授業展開と内容

第1回	歌う姿勢
第2回	呼吸法
第3回	身体の使い方
第4回	発声練習（開口母音）
第5回	発声練習（閉口母音）
第6回	正確な音程
第7回	正確なリズム
第8回	イタリア語の正しい発音(母音)
第9回	イタリア語の正しい発音(子音)
第10回	歌詞の理解
第11回	歌詞の表現
第12回	フレーズと音楽づくり
第13回	前期試験曲の伴奏合わせ
第14回	前期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第15回	前期試験に向けての総合練習
第16回	歌う姿勢と重心
第17回	呼吸法とプレス
第18回	発声練習と身体の使い方（開口母音）
第19回	発声練習と身体の使い方（閉口母音）
第20回	正確な音程と歌い方
第21回	正確なリズムと歌い方
第22回	イタリア語の正しい発音とポジション（音読）
第23回	イタリア語の正しい発音とポジション(歌唱)
第24回	歌詞の理解力の向上
第25回	歌詞の表現力の向上
第26回	古典歌曲の様式感
第27回	古典歌曲の音楽表現
第28回	後期試験曲の伴奏合わせ
第29回	後期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第30回	後期試験に向けての総合練習

### 履修上の注意

実技レッスンであるため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。

体調管理を怠らないこと。レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

---

### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。

歌詞の意味を調べ音読すること。

毎日の練習を積み上げる努力をすること。

一日1～2時間を目安に予習・復習を行うこと。

---

### 教科書・参考書

イタリア古典歌曲集 その他、担当教員から指示のあった任意の歌曲集、コンコーネなどの声楽教本

科目名－クラス名

## 声乐①

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価方法	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	1～	通年	4	評価方法	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

この科目は、短大での学びの根幹となる主科実技の個人レッスン(週1回45分)である。ベルカント唱法に基いた呼吸～発声～共鳴に至るまでの歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。担当教員と曲目を選定し、イタリア語の正確な発音を学ぶとともに、発声の基本的な訓練を積み重ねながら少しずつ歌う身体を作っていく。

実技試験の課題曲は前期・後期とも「イタリア古典歌曲1曲(4分以内)」 実技試験の点数をもって評価とする。

## 学修成果

- 歌唱の基本（発声、呼吸、支え等）を身につけ、ベルカント唱法の基礎力を高めることができる。
- イタリア語の正確な発音を覚えることができる。
- イタリア古典歌曲（1792年のRossini生誕以前の作曲者による作品）のレパートリーを作り、演奏法や様式感を理解することができる。

## 授業展開と内容

第1回	歌う姿勢
第2回	呼吸法
第3回	身体の使い方
第4回	発声練習（開口母音）
第5回	発声練習（閉口母音）
第6回	正確な音程
第7回	正確なリズム
第8回	イタリア語の正しい発音(母音)
第9回	イタリア語の正しい発音(子音)
第10回	歌詞の理解
第11回	歌詞の表現
第12回	フレーズと音楽づくり
第13回	前期試験曲の伴奏合わせ
第14回	前期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第15回	前期試験に向けての総合練習
第16回	歌う姿勢と重心
第17回	呼吸法とプレス
第18回	発声練習と身体の使い方（開口母音）
第19回	発声練習と身体の使い方（閉口母音）
第20回	正確な音程と歌い方
第21回	正確なリズムと歌い方
第22回	イタリア語の正しい発音とポジション（音読）
第23回	イタリア語の正しい発音とポジション(歌唱)
第24回	歌詞の理解力の向上
第25回	歌詞の表現力の向上
第26回	古典歌曲の様式感
第27回	古典歌曲の音楽表現
第28回	後期試験曲の伴奏合わせ
第29回	後期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第30回	後期試験に向けての総合練習



### 履修上の注意

実技レッスンであるため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。

体調管理を怠らないこと。レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

---

### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。

歌詞の意味を調べ音読すること。

毎日の練習を積み上げる努力をすること。

一日1～2時間を目安に予習・復習を行うこと。

---

### 教科書・参考書

イタリア古典歌曲集 その他、担当教員から指示のあった任意の歌曲集、コンコーネなどの声楽教本

科目名－クラス名

## 声乐①

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	1～	通年	4	評価割合	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

この科目は、大学での学びの根幹となる主科実技の個人レッスン(週1回45分)である。ベルカント唱法に基いた呼吸～発声～共鳴に至るまでの歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。担当教員と曲目を選定し、イタリア語の正確な発音を学ぶとともに、発声の基本的な訓練を積み重ねながら少しずつ歌う身体を作っていく。

実技試験の課題曲は前期・後期とも「イタリア古典歌曲1曲(4分以内)」 実技試験の点数をもって評価とする。

## 学修成果

- 歌唱の基本（発声、呼吸、支え等）を身につけ、ベルカント唱法の基礎力を高めることができる。
- イタリア語の正確な発音を覚えることができる。
- イタリア古典歌曲（1792年のRossini生誕以前の作曲者による作品）のレパートリーを作り、演奏法や様式感を理解することができる。

## 授業展開と内容

第1回	歌う姿勢
第2回	呼吸法
第3回	身体の使い方
第4回	発声練習（開口母音）
第5回	発声練習（閉口母音）
第6回	正確な音程
第7回	正確なリズム
第8回	イタリア語の正しい発音(母音)
第9回	イタリア語の正しい発音(子音)
第10回	歌詞の理解
第11回	歌詞の表現
第12回	フレーズと音楽づくり
第13回	前期試験曲の伴奏合わせ
第14回	前期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第15回	前期試験に向けての総合練習
第16回	歌う姿勢と重心
第17回	呼吸法とプレス
第18回	発声練習と身体の使い方（開口母音）
第19回	発声練習と身体の使い方（閉口母音）
第20回	正確な音程と歌い方
第21回	正確なリズムと歌い方
第22回	イタリア語の正しい発音とポジション（音読）
第23回	イタリア語の正しい発音とポジション(歌唱)
第24回	歌詞の理解力の向上
第25回	歌詞の表現力の向上
第26回	古典歌曲の様式感
第27回	古典歌曲の音楽表現
第28回	後期試験曲の伴奏合わせ
第29回	後期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第30回	後期試験に向けての総合練習

### 履修上の注意

実技レッスンであるため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。

体調管理を怠らないこと。レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

---

### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。

歌詞の意味を調べ音読すること。

毎日の練習を積み上げる努力をすること。

一日1～2時間を目安に予習・復習を行うこと。

---

### 教科書・参考書

イタリア古典歌曲集 その他、担当教員から指示のあった任意の歌曲集、コンコーネなどの声楽教本

科目名－クラス名

## 声乐②

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト				
実技・実習	2～	通年	4	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

この科目は大学での学びの根幹となる主科実技の個人レッスン(週1回45分)である。ベルカント唱法に基いた歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。イタリア古典歌曲に加え、イタリアベルカントの代表的作曲家及びVerdiの歌曲まで時代を広げて勉強する。実技試験課題は、前期「イタリア古典歌曲又はRossini,Donizetti,Bellini,Verdiの歌曲1曲(4分以内)」後期「Rossini,Donizetti,Bellini,Verdiの歌曲1曲(4分以内)」実技試験の点数をもって評価とする。

## 学修成果

- 歌唱の技術を理解し、ベルカント唱法の基礎力を向上させることができる。
- イタリア古典歌曲(1792年のRossini生誕以前の作曲家による作品)のレパートリーを作り、演奏法と様式感を理解することができる。
- イタリアベルカントの代表的な作曲家(Rossini,Donizetti,Bellini)及びVerdiの室内歌曲のレパートリーを作り、その演奏法と様式感を理解することができる。

## 授業展開と内容

第1回	呼吸、発声練習
第2回	共鳴、身体の使い方の練習
第3回	イタリア語ディクッション(音読)
第4回	イタリア語ディクッション(歌唱)
第5回	正確な音程とリズム
第6回	イタリア古典歌曲及びRossini,Donizetti,Bellini,Verdiの室内歌曲の様式感
第7回	イタリア古典歌曲及びRossini,Donizetti,Bellini,Verdiの室内歌曲の演奏法
第8回	イタリア語(レチタティーヴォを含む)の正しい発音と歌い方
第9回	歌詞の理解
第10回	歌詞の表現
第11回	時代・様式にあった音楽づくり
第12回	時代・様式にあった表現方法
第13回	前期試験曲の伴奏合わせ
第14回	前期試験曲の伴奏合わせ(暗譜)
第15回	前期試験に向けての総合練習
第16回	呼吸、発声技術の向上
第17回	共鳴、身体の使い方の理解と向上
第18回	イタリア語ディクッションとポジション(音読)
第19回	イタリア語ディクッションとポジション(歌唱)
第20回	正確な音程とリズムを作る能力の向上
第21回	Rossini,Donizetti,Bellini,Verdiの室内歌曲の様式感
第22回	Rossini,Donizetti,Bellini,Verdiの室内歌曲の演奏法
第23回	イタリア語(レチタティーヴォを含む)の正しい発音と歌い方の向上
第24回	歌詞の理解力の向上と表現
第25回	歌詞の表現力の向上と歌唱
第26回	時代・様式にあった音楽づくりと表現
第27回	時代・様式にあった表現方法と歌唱
第28回	後期試験曲の伴奏合わせ
第29回	後期試験曲の伴奏合わせ(暗譜)
第30回	後期試験に向けての総合練習

### 履修上の注意

実技レッスンであるため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。体調管理を怠らないこと。レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

---

### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。  
オペラアリアを学ぶ場合は作品全体をよく研究すること。毎日の練習を積み上げる努力をすること。  
一日1～2時間を目安に予習・復習を行うこと。

---

### 教科書・参考書

イタリア古典歌曲集、Rossini, Donizetti, Bellini, Verdiの歌曲集 その他、担当教員から指示のあった任意の曲集、コンコーネなどの声楽教本など

科目名－クラス名

## 声乐②

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価方法	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	2～	通年	4	評価方法	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

この科目は短大での学びの根幹となる主科実技の個人レッスン(週1回45分)である。ベルカント唱法に基いた歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。イタリア・ベルカントの代表的作曲家及びVerdiまでの室内歌曲の他、日本歌曲、オペラアリアまでを学生の進捗、能力に合わせて学んでいく。実技試験は前期「Rossini, Donizetti, Bellini, Verdiの歌曲1曲(4分以内)」 後期「日本歌曲と自由曲(イタリア語のもの)各1曲(7分以内)」 実技試験の点数をもって評価とする。

## 学修成果

- 歌唱の技術を理解し、ベルカント唱法の基礎力を向上させることができる。
- イタリア・ベルカントの代表的な作曲家（Rossini, Donizetti, Bellini）及びVerdiの室内歌曲やオペラアリアのレパートリーを作り、その演奏法と様式感を理解することができる。
- 日本歌曲のレパートリーを作ると同時に、詩や曲を通じて日本人の心を深く味わい、それを表現することができる。

## 授業展開と内容

第1回	呼吸、発声練習
第2回	共鳴、身体の使い方の練習
第3回	イタリア語ディクッション（音読）
第4回	イタリア語ディクッション（歌唱）
第5回	正確な音程とリズム
第6回	イタリア古典歌曲及びRossini, Donizetti, Bellini, Verdiの室内歌曲の様式感
第7回	イタリア古典歌曲及びRossini, Donizetti, Bellini, Verdiの室内歌曲の演奏法
第8回	イタリア語（レチタティーヴォを含む）の正しい発音と歌い方
第9回	歌詞の理解
第10回	歌詞の表現
第11回	時代・様式にあった音楽づくり
第12回	時代・様式にあった表現方法
第13回	前期試験曲の伴奏合わせ
第14回	前期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第15回	前期試験に向けての総合練習
第16回	呼吸、発声技術の向上
第17回	共鳴、身体の使い方の理解と向上
第18回	イタリア語・日本語 ディクッションとポジション（音読）
第19回	イタリア語・日本語 ディクッションとポジション（歌唱）
第20回	正確な音程とリズムを作る能力の向上
第21回	Rossini, Donizetti, Bellini, Verdiの室内歌曲、オペラアリア及び日本歌曲の様式感
第22回	Rossini, Donizetti, Bellini, Verdiの室内歌曲、オペラアリア及び日本歌曲の演奏法
第23回	イタリア語（レチタティーヴォを含む）・日本語の正しい発音と歌い方の向上
第24回	歌詞の理解力の向上と表現
第25回	歌詞の表現力の向上と歌唱
第26回	時代・様式にあった音楽づくりと表現
第27回	時代・様式にあった表現方法と歌唱
第28回	後期試験曲の伴奏合わせ
第29回	後期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）

**履修上の注意**

実技レッスンであるため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。

体調管理を怠らないこと。レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

**授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法**

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。

オペラアリアを学ぶ場合は作品全体をよく研究すること。

毎日の練習を積み上げる努力をすること。

一日1～2時間を目安に予習・復習を行うこと。

**教科書・参考書**

イタリア古典歌曲集、Rossini, Donizetti, Bellini, Verdiの歌曲集、日本歌曲集

その他、担当教員から指示のあった任意の曲集、コンコーネなどの声楽教本など

科目名－クラス名

## 声乐②

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト				
実技・実習	2～	通年	4	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

この科目は大学での学びの根幹となる主科実技の個人レッスン(週1回45分)である。ベルカント唱法に基いた歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。イタリア古典歌曲に加え、イタリアベルカントの代表的作曲家及びVerdiの歌曲まで時代を広げて勉強する。実技試験課題は、前期「イタリア古典歌曲又はRossini,Donizetti,Bellini,Verdiの歌曲1曲(4分以内)」後期「Rossini,Donizetti,Bellini,Verdiの歌曲1曲(4分以内)」実技試験の点数をもって評価とする。

## 学修成果

- 歌唱の技術を理解し、ベルカント唱法の基礎力を向上させることができる。
- イタリア古典歌曲(1792年のRossini生誕以前の作曲家による作品)のレパートリーを作り、演奏法と様式感を理解することができる。
- イタリアベルカントの代表的な作曲家(Rossini,Donizetti,Bellini)及びVerdiの室内歌曲のレパートリーを作り、その演奏法と様式感を理解することができる。

## 授業展開と内容

第1回	呼吸、発声練習
第2回	共鳴、身体の使い方の練習
第3回	イタリア語ディクッション(音読)
第4回	イタリア語ディクッション(歌唱)
第5回	正確な音程とリズム
第6回	イタリア古典歌曲及びRossini,Donizetti,Bellini,Verdiの室内歌曲の様式感
第7回	イタリア古典歌曲及びRossini,Donizetti,Bellini,Verdiの室内歌曲の演奏法
第8回	イタリア語(レチタティーヴォを含む)の正しい発音と歌い方
第9回	歌詞の理解
第10回	歌詞の表現
第11回	時代・様式にあった音楽づくり
第12回	時代・様式にあった表現方法
第13回	前期試験曲の伴奏合わせ
第14回	前期試験曲の伴奏合わせ(暗譜)
第15回	前期試験に向けての総合練習
第16回	呼吸、発声技術の向上
第17回	共鳴、身体の使い方の理解と向上
第18回	イタリア語ディクッションとポジション(音読)
第19回	イタリア語ディクッションとポジション(歌唱)
第20回	正確な音程とリズムを作る能力の向上
第21回	Rossini,Donizetti,Bellini,Verdiの室内歌曲の様式感
第22回	Rossini,Donizetti,Bellini,Verdiの室内歌曲の演奏法
第23回	イタリア語(レチタティーヴォを含む)の正しい発音と歌い方の向上
第24回	歌詞の理解力の向上と表現
第25回	歌詞の表現力の向上と歌唱
第26回	時代・様式にあった音楽づくりと表現
第27回	時代・様式にあった表現方法と歌唱
第28回	後期試験曲の伴奏合わせ
第29回	後期試験曲の伴奏合わせ(暗譜)
第30回	後期試験に向けての総合練習



### 履修上の注意

実技レッスンであるため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。体調管理を怠らないこと。レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

---

### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。  
オペラアリアを学ぶ場合は作品全体をよく研究すること。毎日の練習を積み上げる努力をすること。  
一日1～2時間を目安に予習・復習を行うこと。

---

### 教科書・参考書

イタリア古典歌曲集、Rossini, Donizetti, Bellini, Verdiの歌曲集 その他、担当教員から指示のあった任意の曲集、コンコーネなどの声楽教本など

科目名－クラス名

**声楽②**

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価方法	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	2～	通年	4	評価方法	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は短大での学びの根幹となる主科実技の個人レッスン(週1回45分)である。ベルカント唱法に基いた歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。イタリア・ベルカントの代表的作曲家及びVerdiまでの室内歌曲の他、日本歌曲、オペラアリアまでを学生の進歩、能力に合わせて学んでいく。

実技試験は前期「Rossini, Donizetti, Bellini, Verdiの歌曲1曲(4分以内)」 後期「日本歌曲と自由曲(イタリア語のもの)各1曲(7分以内)」 実技試験の点数をもって評価とする。

学修成果

- ① 歌唱の技術を理解し、ベルカント唱法の基礎力を向上させることができる。
- ② イタリア・ベルカントの代表的な作曲家 (Rossini, Donizetti, Bellini) 及びVerdiの室内歌曲やオペラアリアのレパートリーを作り、その演奏法と様式感を理解することができる。
- ③ 日本歌曲のレパートリーを作ると同時に、詩や曲を通じて日本人の心を深く味わい、それを表現することができる。

授業展開と内容

- 第1回 呼吸、発声練習
- 第2回 共鳴、身体の使い方の練習
- 第3回 イタリア語ディクシオン (音読)
- 第4回 イタリア語ディクシオン (歌唱)
- 第5回 正確な音程とリズム
- 第6回 イタリア古典歌曲及びRossini, Donizetti, Bellini, Verdiの室内歌曲の様式感
- 第7回 イタリア古典歌曲及びRossini, Donizetti, Bellini, Verdiの室内歌曲の演奏法
- 第8回 イタリア語 (レチタティーヴォを含む) の正しい発音と歌い方
- 第9回 歌詞の理解
- 第10回 歌詞の表現
- 第11回 時代・様式にあった音楽づくり
- 第12回 時代・様式にあった表現方法
- 第13回 前期試験曲の伴奏合わせ
- 第14回 前期試験曲の伴奏合わせ (暗譜)
- 第15回 前期試験に向けての総合練習
- 第16回 呼吸、発声技術の向上
- 第17回 共鳴、身体の使い方の理解と向上
- 第18回 イタリア語・日本語 ディクシオンとボジション (音読)
- 第19回 イタリア語・日本語 ディクシオンとボジション (歌唱)
- 第20回 正確な音程とリズムを作る能力の向上
- 第21回 Rossini, Donizetti, Bellini, Verdiの室内歌曲、オペラアリア及び日本歌曲の様式感
- 第22回 Rossini, Donizetti, Bellini, Verdiの室内歌曲、オペラアリア及び日本歌曲の演奏法
- 第23回 イタリア語 (レチタティーヴォを含む) ・日本語の正しい発音と歌い方の向上
- 第24回 歌詞の理解力の向上と表現
- 第25回 歌詞の表現力の向上と歌唱
- 第26回 時代・様式にあった音楽づくりと表現
- 第27回 時代・様式にあった表現方法と歌唱
- 第28回 後期試験曲の伴奏合わせ
- 第29回 後期試験曲の伴奏合わせ (暗譜)

**履修上の注意**

実技レッスンであるため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。

体調管理を怠らないこと。レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

**授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法**

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。

オペラアリアを学ぶ場合は作品全体をよく研究すること。

毎日の練習を積み上げる努力をすること。

一日1～2時間を目安に予習・復習を行うこと。

**教科書・参考書**

イタリア古典歌曲集、Rossini, Donizetti, Bellini, Verdiの歌曲集、日本歌曲集

その他、担当教員から指示のあった任意の曲集、コンコーネなどの声楽教本など

科目名－クラス名

**声楽②**

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価方法	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	2～	通年	4	評価方法	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は短大での学びの根幹となる主科実技の個人レッスン(週1回45分)である。ベルカント唱法に基いた歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。イタリア・ベルカントの代表的作曲家及びVerdiまでの室内歌曲の他、日本歌曲、オペラアリアまでを学生の進歩、能力に合わせて学んでいく。

実技試験は前期「Rossini, Donizetti, Bellini, Verdiの歌曲1曲(4分以内)」 後期「日本歌曲と自由曲(イタリア語のもの)各1曲(7分以内)」 実技試験の点数をもって評価とする。

学修成果

- ① 歌唱の技術を理解し、ベルカント唱法の基礎力を向上させることができる。
- ② イタリア・ベルカントの代表的な作曲家 (Rossini, Donizetti, Bellini) 及びVerdiの室内歌曲やオペラアリアのレパートリーを作り、その演奏法と様式感を理解することができる。
- ③ 日本歌曲のレパートリーを作ると同時に、詩や曲を通じて日本人の心を深く味わい、それを表現することができる。

授業展開と内容

- 第1回 呼吸、発声練習
- 第2回 共鳴、身体の使い方の練習
- 第3回 イタリア語ディクシオン (音読)
- 第4回 イタリア語ディクシオン (歌唱)
- 第5回 正確な音程とリズム
- 第6回 イタリア古典歌曲及びRossini, Donizetti, Bellini, Verdiの室内歌曲の様式感
- 第7回 イタリア古典歌曲及びRossini, Donizetti, Bellini, Verdiの室内歌曲の演奏法
- 第8回 イタリア語 (レチタティーヴォを含む) の正しい発音と歌い方
- 第9回 歌詞の理解
- 第10回 歌詞の表現
- 第11回 時代・様式にあった音楽づくり
- 第12回 時代・様式にあった表現方法
- 第13回 前期試験曲の伴奏合わせ
- 第14回 前期試験曲の伴奏合わせ (暗譜)
- 第15回 前期試験に向けての総合練習
- 第16回 呼吸、発声技術の向上
- 第17回 共鳴、身体の使い方の理解と向上
- 第18回 イタリア語・日本語 ディクシオンとボジション (音読)
- 第19回 イタリア語・日本語 ディクシオンとボジション (歌唱)
- 第20回 正確な音程とリズムを作る能力の向上
- 第21回 Rossini, Donizetti, Bellini, Verdiの室内歌曲、オペラアリア及び日本歌曲の様式感
- 第22回 Rossini, Donizetti, Bellini, Verdiの室内歌曲、オペラアリア及び日本歌曲の演奏法
- 第23回 イタリア語 (レチタティーヴォを含む) ・日本語の正しい発音と歌い方の向上
- 第24回 歌詞の理解力の向上と表現
- 第25回 歌詞の表現力の向上と歌唱
- 第26回 時代・様式にあった音楽づくりと表現
- 第27回 時代・様式にあった表現方法と歌唱
- 第28回 後期試験曲の伴奏合わせ
- 第29回 後期試験曲の伴奏合わせ (暗譜)

**履修上の注意**

実技レッスンであるため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。

体調管理を怠らないこと。レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

**授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法**

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。

オペラアリアを学ぶ場合は作品全体をよく研究すること。

毎日の練習を積み上げる努力をすること。

一日1～2時間を目安に予習・復習を行うこと。

**教科書・参考書**

イタリア古典歌曲集、Rossini, Donizetti, Bellini, Verdiの歌曲集、日本歌曲集

その他、担当教員から指示のあった任意の曲集、コンコーネなどの声楽教本など

科目名－クラス名

**声楽④**

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	4～	通年	4	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は大学での学びの根幹となる主科実技の個人レッスン(週1回45分)である。ベルカント唱法に基いた歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。学生個々の声種・能力・進度に合わせてオペラアリア、近代歌曲、日本歌曲など幅広いレパートリーを学んでいく。

実技試験課題は、前期「自由曲1曲(イタリア語のもの)(6分以内) ※オペラアリアの場合、Verdi以降の作品は除く」後期「イタリア歌曲または日本歌曲と自由曲(イタリア語)各1曲(10分以内)」試験の点数をもって評価とする。

学修成果

①歌唱の技術を理解し、ベルカントに基いた歌唱力を更に向上させることができる。

②各々の楽器(声)に合った歌曲(日本歌曲を含む)やオペラアリアのレパートリーを作り、様式感のある演奏法と表現力を身につけることができる。

授業展開と内容

第1回	呼吸、発声技術の向上
第2回	共鳴、身体の使い方の向上
第3回	イタリア語ディクシオン力の向上(音読)
第4回	イタリア語ディクシオン力の向上(歌唱)
第5回	レチタティーヴォの歌い方の向上(レチタティーヴォ・セッコ)
第6回	レチタティーヴォの歌い方の向上(レチタティーヴォ・アコンパニヤート)
第7回	カデンツァ・修飾音などの歌唱技術の向上
第8回	アジリタ・ポルタメントなどの歌唱技術の向上
第9回	歌詞・作品の理解力の向上
第10回	歌詞・作品の理解と表現力の向上
第11回	時代・様式にあった音楽づくりの向上
第12回	時代・様式にあった表現方法の向上
第13回	前期試験曲の伴奏合わせ
第14回	前期試験曲の伴奏合わせ(暗譜)
第15回	前期試験に向けての総合練習
第16回	呼吸、発声技術の更なる鍛錬
第17回	共鳴、身体の使い方の更なる鍛錬
第18回	イタリア語・日本語 ディクシオン力の習得(音読)
第19回	イタリア語・日本語 ディクシオン力の習得(歌唱)
第20回	レチタティーヴォの歌い方の習得(レチタティーヴォ・セッコ)
第21回	レチタティーヴォの歌い方の習得(レチタティーヴォ・アコンパニヤート)
第22回	カデンツァ・修飾音などの歌唱技術の向上(ロマン派の楽曲に多用される様々な形)
第23回	アジリタ・ポルタメントなどの歌唱技術の向上(ロマン派の楽曲に多用される様々な形)
第24回	歌詞・作品の理解力の習得
第25回	歌詞・作品の理解と表現力の習得
第26回	時代・様式にあった音楽づくりの習得
第27回	時代・様式にあった表現方法の習得
第28回	後期試験曲の伴奏合わせ
第29回	後期試験曲の伴奏合わせ(暗譜)
第30回	後期試験に向けての総合練習

### 履修上の注意

実技レッスンのため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。

体調管理を怠らないこと。

実技試験でオペラアリアを歌う場合Verdi以降の作品は除くこと。

レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

---

### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。

オペラアリアを学ぶ場合は作品全体をよく研究すること。

毎日の練習を積み上げる努力をすること。

一日1～2時間を目安に予習・復習を行うこと。

---

### 教科書・参考書

担当教員から指示のあった任意の歌曲集、アリア集など

科目名－クラス名

**声楽④**

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価方法	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	4～	通年	4	評価種別	100	0	0	0	0	100
				評価割合						

教育到達目標と概要

この科目は大学での学びの根幹となる主科実技の個人レッスン(週1回45分)である。ベルカント唱法に基いた歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。学生個々の声種・能力・進度に合わせてオペラアリア、近代歌曲、日本歌曲など幅広いレパートリーを学んでいく。

実技試験課題は、前期「自由曲1曲(イタリア語のもの)(6分以内) ※オペラアリアの場合、Verdi以降の作品は除く」後期「イタリア歌曲または日本歌曲と自由曲(イタリア語)各1曲(10分以内)」 試験の点数をもって評価とする。

学修成果

- ①歌唱の技術を理解し、ベルカントに基いた歌唱力を更に向上させることができる。
- ②各々の楽器(声)に合った歌曲(日本歌曲を含む)やオペラアリアのレパートリーを作り、様式感のある演奏法と表現力を身につけることができる。

授業展開と内容

第1回	呼吸、発声技術の向上
第2回	共鳴、身体の使い方の向上
第3回	イタリア語ディクシオン力の向上(音読)
第4回	イタリア語ディクシオン力の向上(歌唱)
第5回	レチタティーヴォの歌い方の向上(レチタティーヴォ・セッコ)
第6回	レチタティーヴォの歌い方の向上(レチタティーヴォ・アッコンパニャート)
第7回	カデンツァ・修飾音などの歌唱技術の向上
第8回	アジリタ・ポルタメントなどの歌唱技術の向上
第9回	歌詞・作品の理解力の向上
第10回	歌詞・作品の理解と表現力の向上
第11回	時代・様式にあった音楽づくりの向上
第12回	時代・様式にあった表現方法の向上
第13回	前期試験曲の伴奏合わせ
第14回	前期試験曲の伴奏合わせ(暗譜)
第15回	前期試験に向けての総合練習
第16回	呼吸、発声技術の更なる鍛錬
第17回	共鳴、身体の使い方の更なる鍛錬
第18回	イタリア語・日本語 ディクシオン力の習得(音読)
第19回	イタリア語・日本語 ディクシオン力の習得(歌唱)
第20回	レチタティーヴォの歌い方の習得(レチタティーヴォ・セッコ)
第21回	レチタティーヴォの歌い方の習得(レチタティーヴォ・アッコンパニャート)
第22回	カデンツァ・修飾音などの歌唱技術の向上(ロマン派の楽曲に多用される様々な形)
第23回	アジリタ・ポルタメントなどの歌唱技術の向上(ロマン派の楽曲に多用される様々な形)
第24回	歌詞・作品の理解力の習得
第25回	歌詞・作品の理解と表現力の習得
第26回	時代・様式にあった音楽づくりの習得
第27回	時代・様式にあった表現方法の習得
第28回	後期試験曲の伴奏合わせ
第29回	後期試験曲の伴奏合わせ(暗譜)
第30回	後期試験に向けての総合練習



### 履修上の注意

実技レッスンのため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。

体調管理を怠らないこと。

実技試験でオペラアリアを歌う場合Verdi以降の作品は除くこと。

レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

---

### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。

オペラアリアを学ぶ場合は作品全体をよく研究すること。

毎日の練習を積み上げる努力をすること。

一日1～2時間を目安に予習・復習を行うこと。

---

### 教科書・参考書

担当教員から指示のあった任意の歌曲集、アリア集など

## 2022年度(後期・通年)「学生による授業評価アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：1826 教員名：五十嵐 麻利江

### 1) 評価結果に対する所見

毎回の評価結果に概ね満足している。

アンケートに答える学生の減少の懸念はあるが、おおよその結果はどの学年もほとんど変わらないようである。ひとりひとりの声に対する思い入れが深いのか否かはこのアンケートでは読み取れないことが残念である。

こちら側は誠実に、また時にユーモアを交え真髓を伝えていきたい。

### 2) 要望への対応・改善方策

イタリア語の語りの個別指導はこれからも細かく行なっていきたい。と同時に歌唱時の発音もレッスンでは触れることのない珍しいものも試して知ってもらいたい。

### 3) 今後の課題

アンケートの感想にあるように歌う時間をより増やしていきたい。語りも読みも大切だが、歌うときのイタリア語がより正しく、美しく響く声に繋がるよう努めていきたい。改善の鍵はそこにあると判断している。

アンケートはとてもヒントとなり助けにもなっている。

以 上